

令和7年度 愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム 自己点検・評価報告書

点検項目	自己点検・評価
プログラムの履修・修得状況	2025年度においては、医学部は「医療のための情報学」「ICTリテラシー」「行動科学1a」「統計学1」の4科目、看護学部は「情報科学I」「情報科学II」「統計学」の3科目によりプログラムは構成されている。それらは全て1学年次開講の科目である。すべてが必修科目より構成されているので、全ての学生が履修することとなっている。 プログラムの修得状況は、医学部の修了者数は121名、看護学部の修了者数は104名であり、医学部と看護学部の修得率はそれぞれ95%と100%であった。
学修成果	学習支援システム(Moodle)により各授業ごとの課題提出・フィードバックがなされており、定期的に学習成果の把握ができています。各学部ごとに授業アンケートが実施されている。医学部では「シラバス」「講義内容」「教員の態度」「講義資料」などが評価され、看護学部では「シラバス」「講義の構成・内容」「教材」「評価」などが評価された。両学部とも、アンケート結果は教員へフィードバックされ、授業改善に活用されている。今後は、その結果を教育プログラム委員会と共有することにより、本教育プログラムの改善にも活用していきたい。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	理解度について検証するために、上の科目別のアンケートとは別に、必須項目の「導入」「基礎」「心得」の3つの項目についてアンケート調査を行った。「理解できた」「概ね理解できた」と回答したのは以下のとおりである。医学部については、導入：84%、基礎：82%、心得：88%となった。看護学部については、導入：70%、基礎：69%、心得：76%となった。2024年度と比較して、看護学部の「心得」がほぼ横ばいであるが、他のいずれの項目とも数ポイント上がっている。自由記述のコメントには、医学部は「データの活用法はよくわかった」「先生の説明する手順を追うのに手一杯で、根本理解はできませんでした」看護学部は「理解が難しい分野であったため、もう少しゆっくり、丁寧に教えてほしいと感じた」という記載があった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムはすべて必修科目で構成されており、履修に関する推奨については考慮されていない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	現在は、必修科目のみで教育プログラムの課程を修得できるようになっている。応用基礎レベル認定に向けて科目が拡充されて選択科目が増えてきた時にこの問題を検討していきたい。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	三年度目の1学年次のプログラムが終了したところである。看護学部の学生は、初年度修了の学生が来年度卒業となるので、就職先(研修先)と共同で卒業生の状況を調査していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	教育プログラム評価委員会において、学内および学外委員の方々より産業界の視点を含めた形でご意見をいただいた。今年度は「公的機関に所属していて、なかなかAIを使っているとはいえないが、今の時代は必要なので、使いこなして欲しいと思う」「同じ地域の他の大学では、地元企業と協力して医療安全等の教育をしている。データサイエンス教育にも参考になるところがあるのではないか」などの意見があった。次年度以降のプログラムの改善に活用していくとともに、他大学の事例の調査を推進していく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	行動科学1aでは、企業所属の研究者を招き産業界でのAI活用を講義してもらった。学生たちの評価はとても良いものであった。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	モデルカリキュラムに準拠した教科書を選定し、それをを使用することによって、一定水準を維持している。医学部のデータ分析の授業では同じデータを「Excel」「Python」「R」で分析することより、理解の助けとしている。